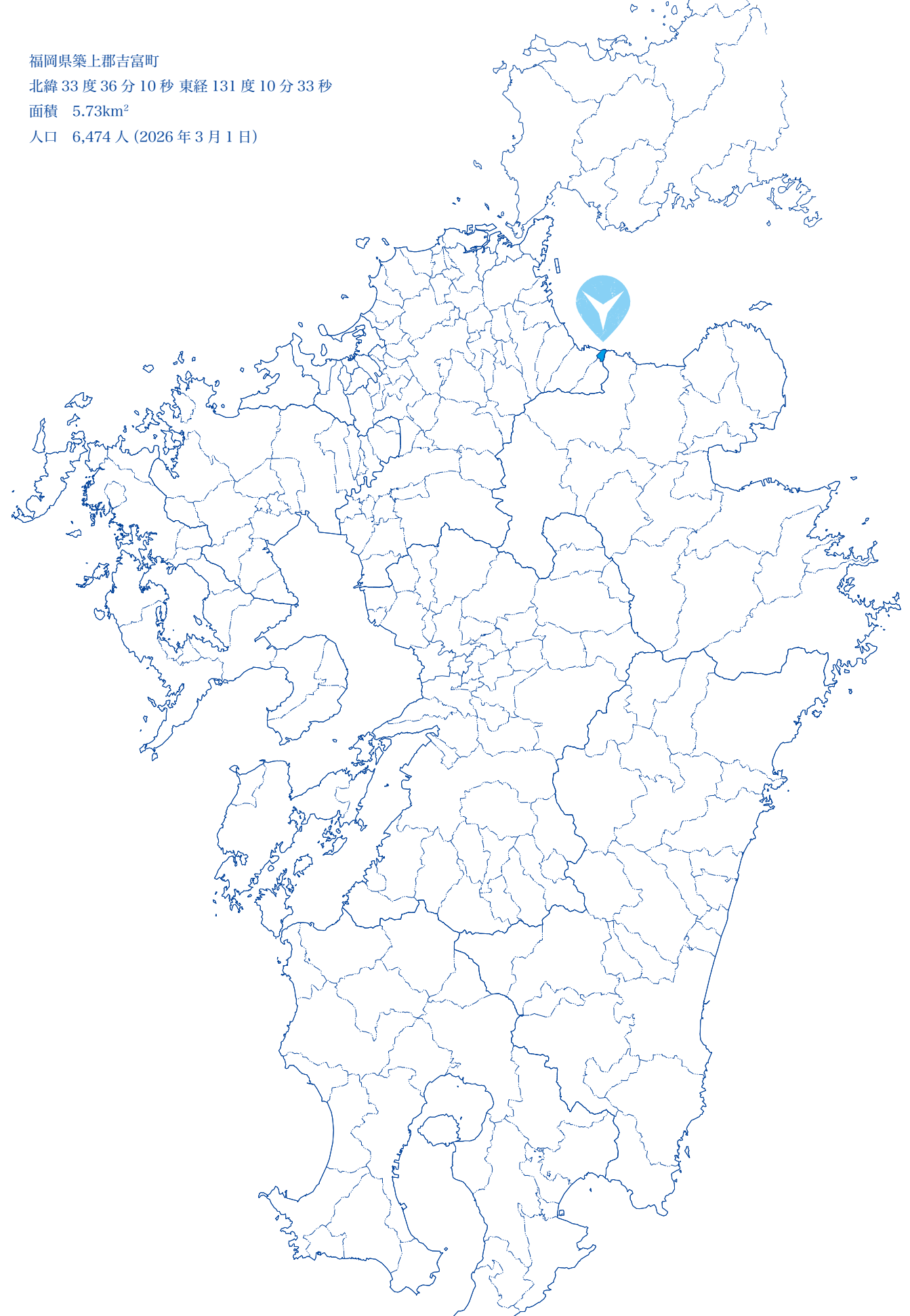




福岡県築上郡吉富町
北緯 33 度 36 分 10 秒 東経 131 度 10 分 33 秒
面積 5.73km²
人口 6,474 人 (2026 年 3 月 1 日)



箱まち

箱庭のような町を 一人歩き 一人語り



ここは九州一小さい町。
自転車でぐるっと一回りでき
てしまう、まるで箱庭のような
まち。



お、朝の光の中、鉄橋を渡る
白いソニック。特急なのにどこ
かゆったり走ってる。
橋の下の川は、佐井川。きれ
いな水が光って、いい気分。



プロのお店に混じって、手作り感たっぷりの出店がいくつもある。みんな顔見知りのよう。私もパイプ椅子に座って、ちよっと休憩。



駅前の広場では、何やら小ぢんまりしたイベント。
これは間違いなく地元のおじさんたちでしょう。力の抜け加減がちょうどいい。



車通りの多い道路に面した小さいスーパー。特売日でもなさそうなのに、お母さんたちの買い物パワーがすごい。

値札をみると、人参、大根、果物も安い！確かに目の色変わりそう。

惣菜売り場も、すごいボリュームと活気。明朝体の文字のシールがお店の実直さを表してるね。これは人気が出るはずだ。



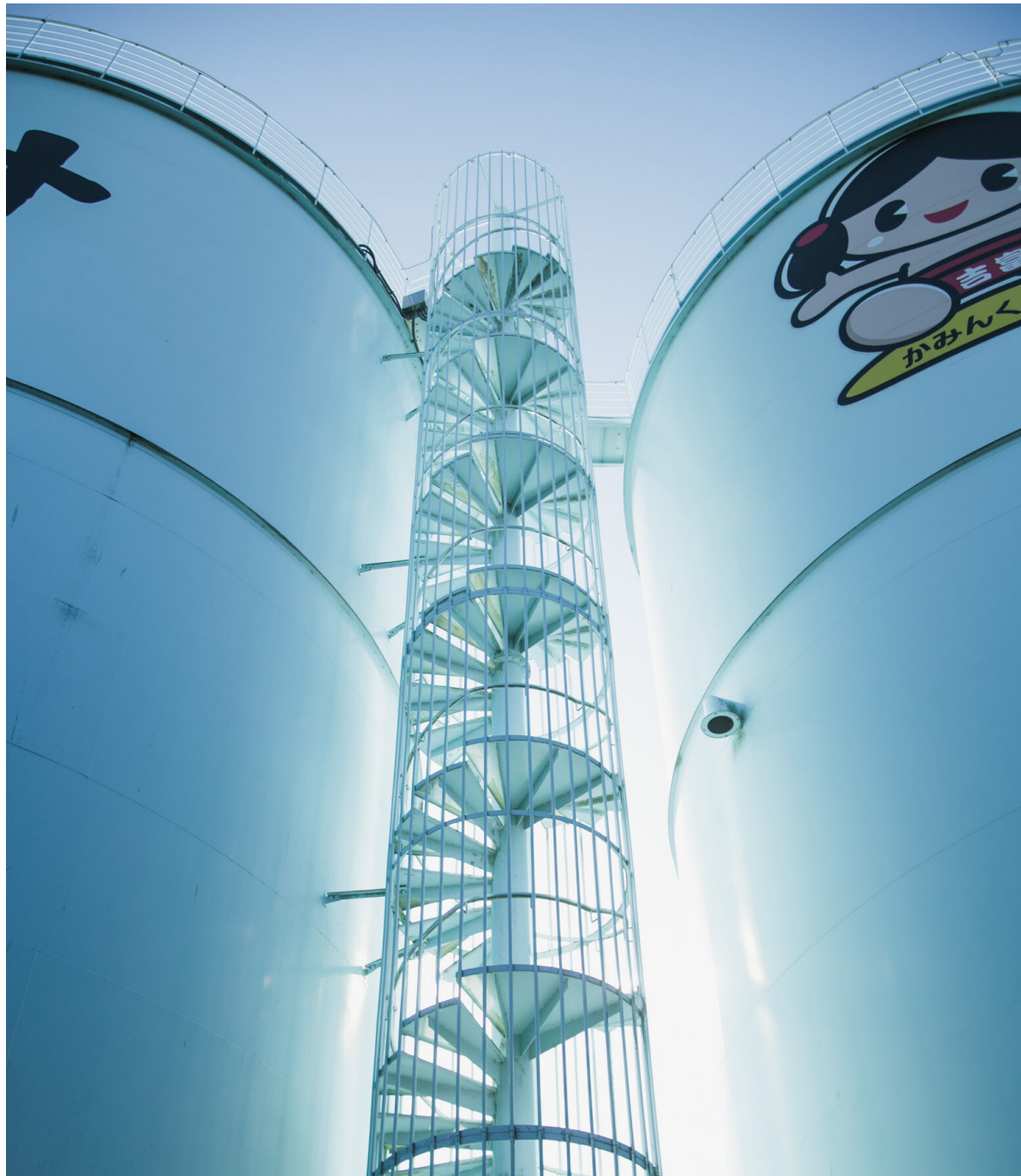
高い煙突と「銭湯」の赤いのぼりに誘われて立ち寄ったお風呂屋さん。仲良しなお母さんとお父さんが二人で営業してるとだそう。

驚くのは料金200円！

山のように積まれた薪で燃料代を節約して料金を安くしてるなんて、なんていいご夫婦。

お風呂のタイルも番台もマッサージ椅子も、すべてがザ昭和。

「吉陽湯」はご夫婦の愛情にあふれた銭湯。いつまでも残って欲しいなあ。



街を見下ろす高台にそびえる
巨大なオブジェ。実は町の人た
ちの生活を潤す水道水のタンク
らしい。
「かみんくん」は、町のキャラ
クター？上半身裸で髪型が独特。
どんな生い立ち？あとで調べて
みよう。





駅の近くの、決して新しくない建物を覗いてみると、突然センスの良いケーキ屋さん。こんなお店が何気なくある町。小さいけれど、まだまだ面白いところがありそうです。



歴史のありそうな橋の欄干は
コンクリート製。丸い穴から視
いてみるとすぐそこに河口、そ
して海。

そうかここは海辺の町なんだ。



そろそろ夕方、町の中心には
ビストロのような雰囲気居酒屋
屋さんがある。

海の幸も、創作料理も、びっ
くりするくらいおいしい。

「こども連れでも他のお客さんに
遠慮なく楽しめるように、個室
席を多くしています。もちろん、
メニューもね」とマスター。

なんてアットホームな町なん
だ！



ぶりぶりの牡蠣。

やっぱり海のが気になってきたぞ。



港で知り合った漁師さんにお願いしたら、漁船に乗せてくれた。役場の漁業担当の職員さんも一緒。

「カゴ漁」はエサを入れたカゴを海に沈めておいて翌朝引き上げてカニや貝を獲る漁。

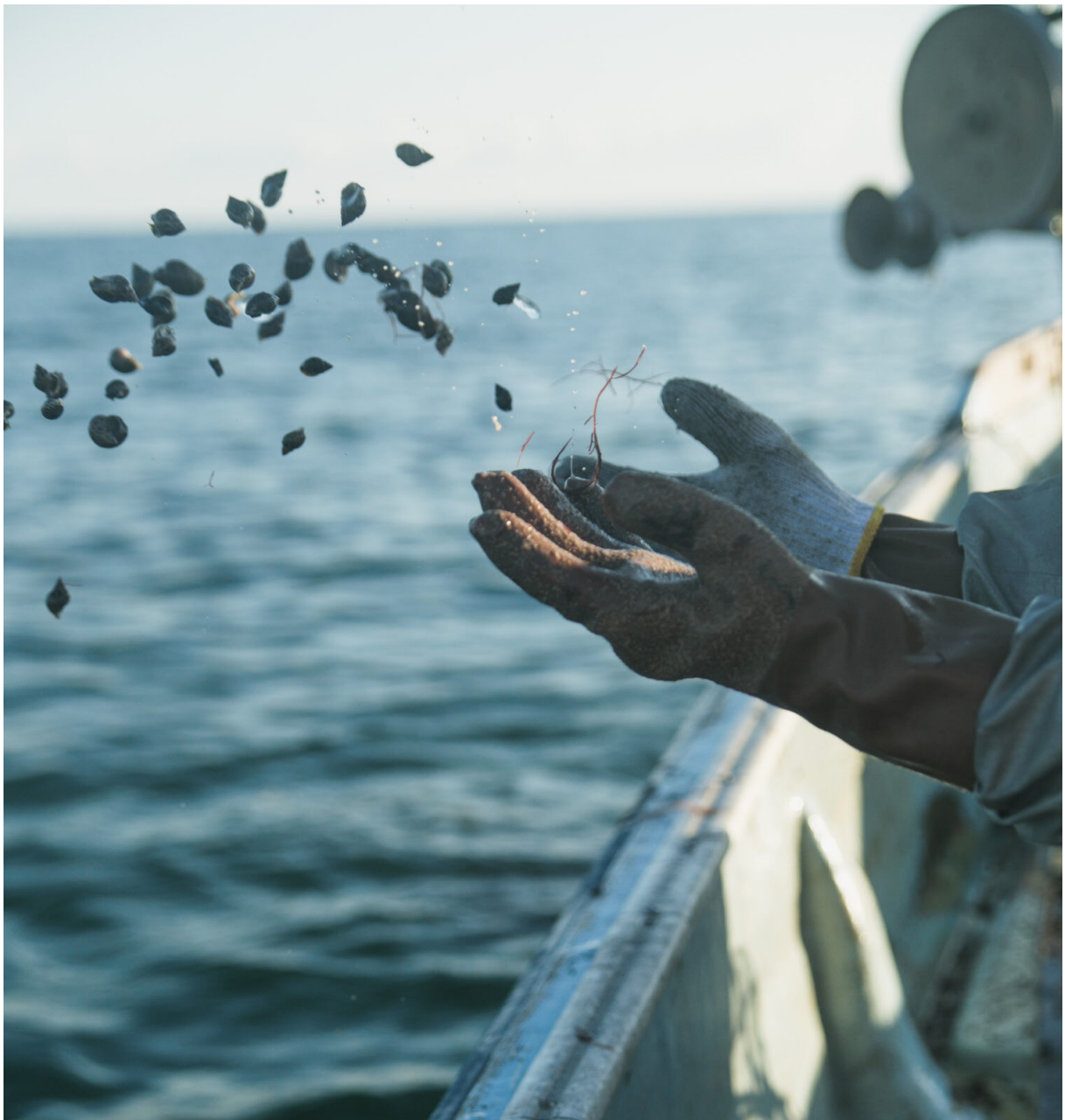
この日は、漁師さんたちが「アメリカさん」と呼ぶカニと「ペーニシ」と呼ぶ貝がたくさん獲れた。(漁師さんたちは「ぜんぜん少ないよ」と言っていたけれど。)

おこぼれをもらいに集まってくるカモメたちとの距離も、びっくりするほど近い。



ペーニシはバイ貝のこと。
まだ小さい子たちは海にさよ
うなら。

「大きくなって来年またおいで」



漁師さんの数も減っているそ
う。遠浅で穏やかな海。魚を受
け継ぐ若い人が増えるといいな。
船に乗せてくれてありがとう
ございました。



JAの直売所をのぞいてみた。
 みんなカゴいっぱい野菜を
 買っている。面積は小さいけれど、
 農業も盛んなんだな。
 付近の町からも、農家さんが
 次々と野菜や花を運んでくる。あ、
 団子や魚まで。新鮮で安い。こ
 れが直売所の魅力なんですね。

「秋の収穫大感謝祭」か。
 なるほど賑わうはず。みかん詰
 め放題、街歩きには荷物になる
 ので、今度にしよう。



吉富町はとても小さい。
東西2キロメートル。南北3
キロメートルほどらしい。真っ
直ぐ進むといつの間にか他の町
に行ってしまうそう。

入り組んだ路地を歩くと公民
館にいくつも出くわす。コンパ
クトな町だから公民館密度も高
いのかも知れない。竹ましも、
なんとなくコンパクトで可愛い
な。



大晦日から元旦へ、年が移り変わる頃、古表神社を訪れる。焚き火の柔らかい灯りに照らされた境内。奥から聞こえてくる笛太鼓。寒さのせいだけではなく、身の引き締まるような感覚で奉納神楽を観させていた。



舞うのは中島さん親子。親子三代で神楽を受け継いでいる。淡々と繰り返される動きの中で見せる真剣な眼差し。流れるようでもあり、メリハリの効いた美しい所作。これは「踊り」ではなく、「神事」なんだということが良く分かった。舞が終われば、穏やかな笑顔の親子に戻る。大役お疲れ様でした。



足元にかわいい「とまれ」。
急がず、ゆっくりこの町のこと
を見てみよう。



新しい年に皆さんは何を祈る
のかな？
ふるまいの甘酒で温まった体
と心で、私も一年の平穏を祈ら
せていただきました。



中では、毎月一度のお誕生日
会が行われている。
おや、こどもたちと先生だけ
じゃなく、お父さんお母さんの
姿もいっぱい。赤ちゃんを抱っ
こしたお父さんの姿も。
みんなスマホで我が子の撮影
会みたいです。



ここは、『町営のこども園』
『こどもの森』ですか。建物の絵が
可愛い。



わかば乳児保育所では和太鼓
の練習。衣装も太鼓もかっこ
い！
「やー！！」



こちらは昭和保育園。
本格的にお手前のお稽古中。
シーンと静かに、真剣に。お利
口なこどもたち。



さてさて、こちらは、つくし
んぼ保育園。みんなで裸足で雑
巾掛け中です。
それにしても元気いっぱい
のこどもたち。



町の四つの保育園を巡ったけれ
ど、それぞれに個性があつて楽
しかったあ。親御さんたちが楽
しみに見学に来るのも納得です。
吉富のこどもたちは、優しい
大人に囲まれてみんな元気いっ
ぱい。



上手な版画の掛かる廊下の窓から、6年生の教室をのぞいてみると・・・



町で唯一の小学校。なんだか歴史を感じる立派な校舎。広いグラウンド。



タブレットも使いながら算数の授業。みんな真面目に勉強中。それはそうか。
先生も吉富町の言葉まじりで教えているのが面白かった。うん、ここもアットホーム。



次は中学校。

吉富中学校の軟式テニス部は、全国トップクラスの強豪校。すごい先輩たちもたくさん輩出しているそうです。

この日も高校生の先輩たちが、グラウンドを訪れて後輩たちにアドバイスしてくれていました。これが強さの秘密かもね。



3年生は受験に向けて勉強中。
お家に帰って頑張ります。
さようなら。



今年も目指せ全国優勝！
部員全員で飛躍するぞ。
セーの、ジャンプ！



こっちは、大きな石で、川と山が庭園のように再現された場所。まさに箱庭だね。



山国川の河川敷は公園のようにきれいな場所。
ん？横断歩道や小さい道路、の中にバスケットコート。
「交通公園」か・・・小さい子から高校生まで、みんな思いっきり遊べて楽しそう。



山国橋の真ん中が大分県との
県境。景色に見とれて歩いて
いたら、つい隣の町や、隣の県に
出てしまう。

箱庭のようなまち、吉富町。
落ち着いて、穏やかな町だった。

『箱庭』

真夏を少し過ぎていた。

日差しは耐えがたいと言うほどではなかったけれど、まだ強かった。自転車でも緩やかな坂道を下っている間は風を受けて涼しいけれど、スピードを緩めると急に暑く感じられた。

私は川沿いの木が覆いかぶさっている細い道で自転車を降りた。フェンスに自転車を立て掛けて、川へ降りる階段へ向かう。途中に看板が立っていて、この川で見られる野鳥が写真付きで紹介されている。

カッブリ

カワセミ

オオヨシキリ

カワラヒワ

インシギ

セグロセキレイ・・・

カワセミだけは知っている。と思いながら、河原へ下りた。そこはコンクリートの堰があつて、川の水をちよつとしたダムのようにせき止めている。その堰の一部に水を下流に流すための切れ目があつて、そこだけ勢いよく水が流れている。

足元に溜まった水を覗き込むと、透き通った水の底に深い緑色の苔の玉のようなものがいくつもあつた。

「マリモツ」

多分あれは北海道の湖にあるものだから、これはただの藻の塊ね。と考え直す。それにしても美しい。

岸の芦原やその兩岸の木の間に小さい鳥たちが時々飛び交う。鳴き声も聞こえてくる。きつとさっきの看板にあった鳥のうちどれかだろうと思うけれど、それがどの鳥か？カワセミでないことだけは分かった。

向こう岸の歩道を大きく手を振って歩く二人の女性が見えた。午後のウォーキングらしい。川面を渡る風、木陰の歩道。このコースなら日差しも気にならないだろうと思う。

30分ほどそこにいたと思う。日差しも少し和らぎ、体も川の冷気に冷やされ、清々しくなった。

私は再び自転車で乗って川の下流へ向けて走り始めた。

すぐに住宅地に入る。古い家が多く並んでいる。土塀を巡らせた立派な家もあつて、庭木がきちんと手入れされている。

車ならやっと一台が通れそうな路地をゆつくりと走り抜ける。黒猫が一匹、家の庭の花壇に寝そべっている。緑の草の上に咲いている数輪の白い花の間で、目だけで私を鑑定しているようだ。

「こいつどこから来たやつだ？見慣れない顔だ」と言わんばかりの目つきで。

その向こうの玄関前に、一人の老婆が、椅子に座って庭を見つめていた。私は軽く会釈を試みる。老婆は私に気づき、にっこりと笑った。

予感、よりも、もう少し強い自信、が今、心の中にある。

風が心地よく私の顔を撫でていく。

さあ、家へ帰ろう。小さな箱庭のような町の一角にある、小さな新しい家、私の家族の待つ家。

「あ、買い物も忘れないよう(笑)」

古い家が並ぶ住宅地を抜けると田んぼが広がっている。まだ緑色の稲穂が風に揺れる。その間に新しい住宅が立ち並んでいる。建設中の現場も所々にある。古い街と新しい街が共存している。

新しい家には必ずと言ってほど、小さい子ども用の自転車が見えた。

さらに進むと、車の往来が多くなってきた。この辺が街の中心部なのだろう。相変わらず細い路地が多い。路地の脇に水路が流れていたりする。水の多い街なのだろうか。

ふと、一軒の家が大木に飲み込まれそうになっているのに気づく。公民館？

三角屋根、木造の茶色の建物のすぐ脇に、太い木が立っていて、その太い幹と建物の間はほとんどないように見える。来年にはこの建物は木に押されて歪んでしまうのではないかと考えたけれど、小さい公民館はそれでも丁寧に掃除されている。

大切にされているなら大丈夫。ご近所の人たちがきつと助けてくれるに違いない。

駅の周りは新しくきれいに整備されたようで、明るい雰囲気。おしゃれなお菓子屋さん、地元の人に愛されているようなスーパーマーケット。もちろんコンビニもある。うん、コンパクトに何でも揃っているではないか。

これといった理由も思いつかないけれど、「この街に来て良かった」と思う。

これから、この小さな町と上手くやっつけていけそうなの



あの大きなタンクの周りの桜も
満開。
生命力に溢れる季節。丘への坂
道を歩く人たちの足取りも軽い。
さ、私もまた一歩踏み出そうかな。



季節は、いつか春。
畑に麦の穂が揺れ、空から
ひばりの声が降ってくる。

吉富町のふるさと納税



🔍 吉富町ふるさと納税



箱庭のような町を 一人歩き 一人語り

吉富町情報誌 『箱まち』

2026年3月
発行：吉富町
〒871-8585 福岡県筑上郡吉富町大字広津226番地1
TEL 0979-24-1122(代表)

編集：オノコボデザイン合同会社



吉富町の移住・子育て支援



住む	マイホーム取得助成	固定資産税 3年間ほぼ	無料
住む	空家バンク利用促進補助金	仲介業者に支払った 仲介手数料の額	最大 5万円 補助
住む	空家改修事業補助金	空家改修・ 家財処分費用	1/2 補助 (上限あり)
結婚	新婚家庭家賃補助		10,000 円/月 (36ヶ月間)
新生児	国民健康保険税(均等割額)半額	妊婦 検診検査	補助券 交付
保育園児		第3子以降	保育料 保育園 副食費
小学生			小学校給食費
中学生			
高校生			
高校・高専(3年生以下) 専修学校高等課程		貸付 無利子	27,000 円/1人/月額
大学・大学院・短大・ 高専(4年生以上) 専修学校専門過程		貸付 無利子	60,000 円/1人/月額
	奨学金の返還支援助成		10年間で最大 65万円

移住定住支援について
詳しくは



🔍 吉富町移住定住サイト

町の公式 Instagram



🔍 よしとみイイコト